

# ES-3 Ver 2.5 リリースノート

## [ . V2.5 新機能 ]

### 1. キーボードの設定

「コントロールパネル」ダイアログ「ユーザー」タブの「キーボードの設定」が、設定画面を改善してより分かりやすくなると共に、グローバルショートカット設定を追加して、共通機能を割り当てられるようになりました。

任意の機能をキーボードのキーに割り当てるには、「カスタマイズ」ボタンをクリックしてカスタマイズウィンドウを表示し、希望の機能を任意のキーにドラッグします。

不要なボタンは、キーをマウスでクリックして選択し「削除」ボタンをクリックするか、キーボードの Delete キーを押して削除できます。

ここでの変更は、タスクバーから開くショートカットの表示に反映されます。(2-3 ショートカットの表示参照)

### 2. タスクバーへの表示追加

画面下のタスクバーに、以下の機能が表示されるようになりました。

#### 2-1 オーディオメーター



タスクバーに、オーディオメーターが表示されます。

オーディオメーターをクリックすると、オーディオツールを開閉する事ができます。

「ロギングツール」を開いている場合は入力が、それ以外の場合は「出力」が自動的に選択されます。

#### 2-2 レンダーバーとプレビューアイコン



タスクバーに、レンダリングの進行状況を確認できるレンダーバーとプレビューアイコンが表示されます。

レンダーバー表示ではプログレスバーが、プレビューアイコン表示では アイコンのかわりに小さなレンダービューが表示されます。

これらのアイコンを表示するには、アイコンを右クリックしてポップアップメニューから「レンダーバー表示」、「プレビューアイコン表示」を選択してチェックマークを付けます。

また、ポップアップメニューから、レンダリングの開始と停止をコントロールする事もできます。

#### 2-3 ショートカットの表示



タスクバーに表示されているキーボードアイコンをクリックして、ショートカットが割り当てられたキーボードを表示できます。

キーボードには、常に現在有効な機能のショートカットが表示され、クリックすると該当する機能を実行することができます。

### 3.レンダーファイルの削除機能

プロジェクトのレンダーファイルを削除する際に、プリレンダーファイルも削除する事が可能です。この機能を有効にするには、ゴミ箱を右クリックしてポップアップメニューを表示し、「プロジェクトのレンダーファイルを削除」>「プリレンダーファイルも含む」を選択します。

プリレンダーファイル：イメージやアニメーションなど、直接タイムラインで再生できないファイルを再生できるように変換したファイル。

### 4.削除ダイアログ

プロジェクトウィンドウ内のクリップを削除する際に表示されるダイアログの表示内容を細分化して、より最適な削除ができるようになりました。

### 5. [オーディオの設定] ダイアログ



「オーディオミックスの記録」や「ボイスオーバー」機能 (ES-3 XL のみ) を実行する際、プリロールとポストロール時間の設定が可能です。

設定するには、ES-3「スタート」メニューから「コントロールパネル...」>「ユーザー」タブを選択し、「オーディオの設定」をダブルクリックして、「オーディオの設定」ダイアログを開きます。

### 6.コントロールパネル (ESBK-7011) のフェーダー位置関係表示

コントロールパネル (ESBK-7011) が接続されていて、「オーディオの記録」が有効になっている場合、オーディオエディターの画面上でフェーダーの位置関係を確認する事ができます。

「オーディオミックスの記録」を開始する時に、コントロールパネルのフェーダーの位置を正確に設定する事ができます。

コントロールパネルのフェーダーが下にある場合は が、上にある場合は が、同じ位置にある場合は両方とも点灯します。

### 7. ディスクの残容量表示

ロギングツールの残量表示で、残り時間に加え、ディスクの残容量と%も表示されます。

残り 2時間 5分 (24.3 GB 95%)

バッチデジタイズダイアログでは、バッチデジタイズ終了後のディスクの残容量と%が表示されます。

デジタイズ後のディスク容量: 13.0 GB 77%

### 8. 「バッチデジタイズ」ダイアログへの機能追加

バッチデジタイズの際に、「バッチデジタイズ」ダイアログから「ビデオツール」または「オーディオツール」を開いて設定する事が可能です。

## 9. シーケンスの出力

タイムライン上のシーケンスを AVI ムービーファイルや QuickTime ムービーファイルなどのファイルに保存する際に、スクエアピクセルフォーマットを指定する事ができます。

ビデオサイズでフルサイズと1 / 4サイズが選択されている時に指定すると、サイズが自動的に変更され  
ます。

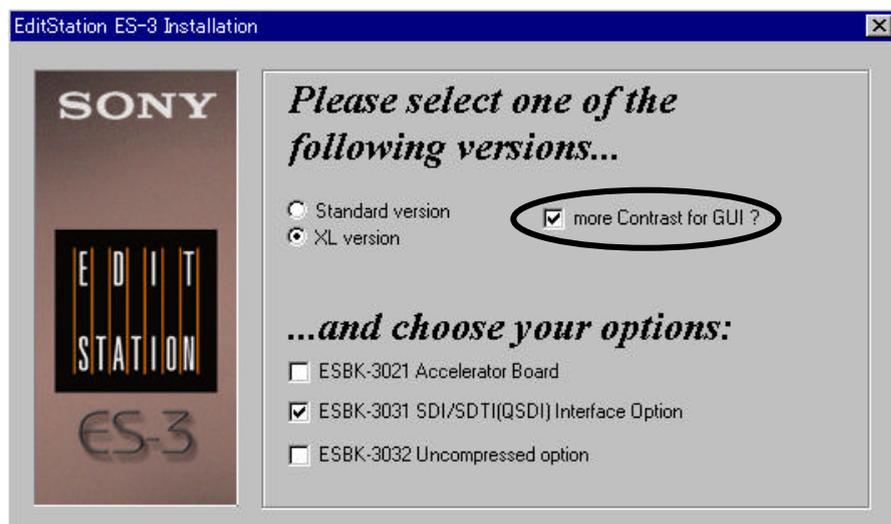
## 10. AVI ムービーファイル作成時のオーディオの設定

「シーケンスの出力」機能で、シーケンスから AVI ムービーファイルを作成する際のオプション設定で、オーディオの設定ができます。

## 11. 画面の強調表示

ES-3 の画面を、よりコントラストをつけて強調表示する事ができます。

強調表示するには、ES-3 Ver2.5 をインストール時に、「more Contrast for GUI ?」のチェックボックスにチェックマークを付けます。



V2.5 新機能に関して、詳しくはオンラインヘルプ、またはオンラインマニュアルをご覧ください。

## [ . V2.5 XL 新機能 ]

ES-3 V2.0XL ソフトウェア ESBZ-3020 がインストールされていた場合は、更に以下の機能が追加されます。

ES-3 V2.5 をインストール時に、「XL version」を選択します。（ - 12 の画面参照）

### 1. ボイスオーバー



タイムラインを再生してモニターしながら、ナレーションなどの音声を記録し、オーディオクリップとしてタイムラインへ挿入することができます。

[ ボイスオーバー ] 機能を実行するには、以下のようにします。

1. タイムライン上でナレーション等を挿入したい区間に、マークイン/アウト点を設定します。マークアウト点が設定されていない場合はオープンエンドになります。
2. オーディオエディターを開き、ツールバー上の [ ボイスオーバー ] ボタンをクリックします。タイムラインの再生と音声の記録が開始されます。途中で終了させたい場合はもう一度 [ ボイスオーバー ] ボタンをクリックします。ツールバー上に [ ボイスオーバー ] ボタンが表示されていない場合は、右クリックで [ カスタマイズ... ] を選択し、[ カスタマイズ ] ツールボックスの [ ミキサー ] タブから、[ ボイスオーバー ] ボタンをツールバーにドラッグして下さい。
3. 終了すると [ ボイスオーバー ] ダイアログが開くので、挿入するトラックを選択し、クリップ名を入力します。オーディオクリップが作成されて、タイムラインに挿入されます。

プリロール/ポストロール時間、クオリティの設定は、ES-3 [ スタート ] メニューから [ コントロールパネル ] を開き、[ ユーザー ] タブにある [ オーディオの設定 ] ダイアログで行ないます。

\* [ オーディオの設定 ] ダイアログに関しては、 - 5 をご参考ください。

【ご注意】 この機能はウィンドウズのサウンドレコーダーを使用するため、実現するにはPCにサウンドデバイスが必要です。

また入力に関する設定は、ウィンドウズの録音コントロール（スタート>プログラム>アクセサリ>マルチメディア>ボリュームコントロール>オプション>プロパティ）で行ないます。

### 2. スライドクリップ



この機能を有効にすると、選択したクリップのイン点、アウト点、およびデュレーションを維持したまま、隣接したクリップ、またはギャップに対する位置を調整できます。

スライドさせる事により、隣接したクリップやギャップのデュレーションが延長、または縮小されます。

スライド機能は、「スライドクリップ」ボタンをクリックして有効/無効を切り替えます。

【ご注意】 ・隣接クリップのデュレーションを0にするようなスライド動作はできません。

ただし、隣接したギャップのデュレーションは0にする事ができます。

・この機能は、常に「上書きスタイル」で働きます。

### 3. クリップの延長



タイムライン上のクリップやギャップを、延長する事ができます。

クリップやギャップの左側にマークイン点を設定してこの機能を実行すると、クリップのイン点やギャップがマークイン点まで延長します。

クリップやギャップの右側にマークアウト点を設定してこの機能を実行すると、クリップのアウト点やギャップがマークアウト点まで延長します。

タイムラインを再生しながらマークを設定し、クリップの長さを調整する事ができます。

【ご注意】 ・マークイン点とマークアウト点の両方が設定されている場合、この機能は無効です。

・この機能は、常に「上書きスタイル」で働きます。

### 4. マークイン/アウト間の移動



マークイン点、マークアウト点で指定したタイムライン上の範囲を、タイムラインカーソルの位置に移動します。

【ご注意】 「フィルムスタイル」の時、タイムラインカーソルがマークイン/アウト点で設定した範囲内にある場合、リップルされて移動の効果が無い為、この機能は実行できません。

### 5. マークイン/アウト間のコピー



マークイン点、マークアウト点で指定したタイムライン上の範囲を、タイムラインカーソルの位置にコピーします。

【ご注意】

・「上書きスタイル」の時、コピーの結果がコピー元の範囲に重なってしまう位置にタイムラインカーソルがある場合、この機能は実行できません。

・「フィルムスタイル」の時、コピーの結果がコピー元の範囲を分割してしまう位置にタイムラインカーソルがある場合、この機能は実行できません。

### 6. コンテナの解除

タイムライン上の作成したコンテナを解除する事ができます。

コンテナを解除するには、該当するコンテナを選択して右クリックし、表示されるポップアップメニューから「コンテナの解除」を選択します。

この際、コンテナ内で編集した内容も反映されます。



【ご注意】 解除する際は、コンテナが存在するトラックから下に向かって展開されるので、コンテナ内でトラックを追加した場合は注意が必要です。

## 7. OMF の出力のサポート

タイムラインのシーケンスを、OMFI の形式で出力する事ができます。

この機能を使用して、オーディオを別システムに移して編集する事が可能になります。

ES-3「スタート」メニュー>「ツール」>「OMF の出力...」を選択して、「OMF の出力」ダイアログを開いて実行します。

OMF : Open Media Framework ( OMF ) Interchange

Avid 社が提唱している各種デジタル編集システム間で

データのやり取りができる事を目的とした共通フォーマット

V2.5 XL 新機能に関して、詳しくはオンラインヘルプ、またはオンラインマニュアルをご覧ください。

## [ . V2.5 操作上の変更点]

### 1. フィルムスタイルでのクリップの移動

クリップを右側にドラッグした際、ドラッグを開始しても以降のクリップが直ちにリップルされないようにするとともに、カーソル位置の画像は、実際にクリップが挿入される直後の画像が表示されるようになりました。リップルは、クリップをドロップした時点で行われます。

【ご注意】 タイムラインカーソル位置が、元のクリップ位置の間にある場合は、リップルされて移動の効果がないため、クリップの移動は禁止されています。（禁止  ク が表示される）

### 2. オーディオキーフレームの設定

コントロールパネル (ESBK-7011) を接続して、トラックの「オーディオの記録」を有効にしている場合（赤いランプが点灯）、画面上のフェーダーでのみキーフレームの設定が可能になりました。

コントロールパネルのフェーダーは、「オーディオミックスの記録」  を実行している間のみ、操作可能となります。

なお、「オーディオの記録」を無効にしている場合は、画面上、コントロールパネル (ESBK-7011) の双方のフェーダーでキーフレームの設定を行う事ができます。

### 3. オーディオスクラブ

マウスや矢印キーでスクラブした場合のスピードを、 $\pm 1$  倍速に限定して、より正確にオーディオの編集ポイントを探せるようにしました。

また、コントロールパネル (ESBK-7011) でのジョグも、最大  $\pm 2$  倍速に制限しました。

なおオーディオスクラブは、シャトル再生の場合でも、「Scroll Lock」をオンにしたときのみ有効になりました。

### 4. ショートカットキー

新機能がキーボードのショートカットに新たに設定されました。

それに伴ない、一部ショートカットキーの配置が変更になっています。

なお、モディファイヤーコマンドの「タイムラインカーソルを最も近いエディットに合わせる」は右 Shift キーに、「タイムラインカーソルを最も近いイベントに合わせる」は左 Shift キーに、それぞれ移動しました。

また、タイムラインのズームイン / アウトは / キーでのみ有効になります。

ショートカットの一覧に関しては、オンラインヘルプ、またはオンラインマニュアルをご覧ください。

### 5. その他

ESBK-3021、ESBK-3031、ESBK-3032 のソフトウェア部分は、全て Ver2.5 に含むようにしました。インストール時に、使用するオプションを選択してください。（ - 12 の画面参照）

動作させるためには、基板やソフトウェアプロテクションキー（ dongle ）が必要です。

XL の機能は、ESBZ-3020 に付属しているソフトウェアプロテクションキー（ dongle ）が必要です。

## [ . 改善項目 (V2.0 から) ]

V2.5では、V2.0の下記の問題点を、改善しました。

1. ロギングツールでアナログやSDI音声入力を選択されない。
2. タイムライン上でオーディオクリップが貼られていない部分がある場合、タイムライン再生やテープに記録したときに、その近辺で i.LINKとSDTI(QSDI)出力にモザイク状のノイズが出る。  
(SYAM00-007の恒久対策)
3. シーケンスのスタートが 00:00:00:00 より前の場合、マーカーリストで00:00:00:00 以降のマーカーのタイムコードが ####:### と表示される。
4. 複雑なレンダリングを実行した時や、レンダリング中にその内容を変更するような操作を行なった場合、レンダリングが中断して再開できなかったり、ハングアップしたりする。
5. ロギング時にクリップノートを入力する際、先にマーク点を決定してからログボタンを押した場合、入力エリアが正しく表示されない。
6. ES-3でTIFFシーケンスを出力時にファイル名に '.tif' を付けないとファイルが出力されない。
7. ES-3 CGで、テキストをコピー/ペーストした場合、カーソル位置に正しくペーストされない。
8. ES-3 CGで、文字間隔が近づきすぎる。(例えばC - Tで - がCやTに入り込んでしまう)
9. ES-3 CGで、画像ファイルをインポートする際 下記の文字がファイル名に含まれていると、インポートした画像を再表示できず、ファイルが見つからないというメッセージが出る。
  - ・ 全角記号、全角カタカナ、ロシア文字、特殊文字  
+、±、ポ、マ、 、 、 垠、埶、藁、藝、儻、傲、礪、礼
  - ・ 第1水準漢字  
閱、厭、顎、笠、宮、急、鷄、迎、砒、閤、施、枝、旬、殉、須、囟、搜、  
挿、蓄、筑、怒、党、倍、媒、府、扶、本、凡、養、抑
  - ・ 第2水準漢字  
几、夙、嘴、嘲、學、孺、憇、怡、掉、掄、桀、栲、毳、炮、佻、瘥、  
痾、窞、竈、鱗、鱧、蛔、蛩、錠、諳、轆、輒、閔、閨、驅、驀、黠、黨
10. ES-3 CGで、欧文フォントを選択しても すべてArial になってしまう。

## [ . 操作上の注意事項]

1. ES-3を立ちあげるときは、以下の点に注意してください。
  - ES-3メインユニットの電源を入れて30秒ぐらい経ってから、PCの電源を入れて下さい。
  - Windowsが完全に立ち上がって(ハードディスクへのアクセスが止んで他のアプリケーションがすぐ起動できる状態)から、ES-3を起動してください。
  - ES-3を立ちあげてすぐにロギングツールを開く場合は、ビデオ表示が出てから開いてください。表示されるビデオが存在しない場合は、ES-3が完全に立ち上がってから、ロギングツールを開いてください。
  - ES-3を終了して再度起動する場合は、ES-3が閉じてから30秒ぐらい経ってから、再起動してください。
2. ロギングツール内のビデオ表示に他のウィンドウやメニューを重ねてマークすると、インデックスピクチャーに、重なった部分が取り込まれます。  
ビデオ表示には何も重ねないでマークしてください。
3. ロギングツールからメディアフォーマットの編集を行なう場合、システム設定内の入出力タブを開くと、現在選択されている入力に変更されることがあります。  
変更された場合は、VTRを再選択してください。
4. 非圧縮モードで使用する場合、DV圧縮モードに比べて以下の違いがあります。
  - デジタイズ実行中は、ツール内のビデオ表示は更新されず静止画になります。
  - ES-3 CGを操作中は、ビデオモニターに背景のビデオ表示はされません。
  - ロール/クロールタイトルクリップをクリップビューアーで再生しても、背景のビデオ表示はされません。
5. 4kビットのカセットメモリーを持つDVテープでは、iLINKで接続した場合にはClipLinkの機能を使うことは出来ません。
6. デジタイズ中はビデオツールで入力画像を調整しないで下さい。  
デジタイズ前にあらかじめ調整しておいてください。
7. 16:9モードで編集する場合は、使用する全てのクリップやタイトルが16:9モードでデジタイズ/作成されていることが必要です。4:3モードでデジタイズ/作成したクリップやタイトルをレンダリングすると、サイズが変わる場合があります。
8. 輝度(Y)の入出力レベルは、100IREに制限されています。
9. サンプリング周波数 8,12,16,24kHzのウェーブファイル(\*.wav)や、AIFF形式のオーディオファイルのイ

ンポートには対応していません。

- 10 . 外部で作成したグラフィックファイルをインポートするときは、ピクセルの違いに注意してください。一般のグラフィックファイルは正方画素に基づいていますので、ビデオ上では縦横比が変化します。この場合、画像オブジェクトの [ プロパティ ] ダイアログのピクセルフォーマットで、スクエアを選択してください。  
なおES-3 CGでは、あらかじめNTSC,PALのサイズを想定してファイルが作成されます。  
また、アスペクト比を保持したままサイズを合わせてインポートしたファイルにエフェクトエディターで効果をかける場合は、全画面サイズに対して効果がかかります。
- 11 . NTSCでタイムコードのフレームモード(DF/NDF)を変更した場合、新規に作成されるシーケンスから反映されます。  
また、システムとシーケンスのフレームモードが異なる場合は、そのシーケンスの再生はできませんが変更はできません。  
もし既存のシーケンスのフレームモードを変更したい場合は、希望するフレームモードの新規シーケンスを作成して、元のシーケンスをタイムラインに送出してください。
- 12 . クリップをドラッグしたまま ビュースイッチャーを切り替えることができます。  
クリップをドラッグして目玉のアイコンの上に置いたままにすると、表示モードの一覧が出るので希望のモードの上にマウスを移動してください。
- 13 . クリップのコピー/ペーストは、同一シーケンス内の場合と異なるシーケンス間の場合とで動作が異なります。  
同一シーケンス内の場合は、クリップがリンクされておりリンクされたクリップを自動選択していれば、プロテクトされているトラックからコピーできます。  
ペーストされるトラックは、元のクリップと同じプロテクトされていないトラックです。  
異なるシーケンス間の場合は、プロテクトされたトラックからはコピーできません。  
ペーストされるトラックは上から順番にアクティブなトラックが使用され、トラックの数が足りない分はペーストされません。
- 14 . テストパターンとして内蔵しているカラーバー等のクリップ(\*.bgi)と、タイトル等のアルファチャンネル付きのクリップを連続して再生することはできません。  
クリップとクリップの間に別のクリップを置いてください。
- 16 . トリムエディターやES-3 CGを開いているときは、エフェクトのレンダリングは行われません。  
トリムで影響を受けるエフェクトのレンダリングは、トリムエディターを閉じてから開始されます。  
またプレビューの際には、クリップFXは反映されません。

17. レンダープレビューアイコンを表示しているときにレンダービューを開くと、そのスライスのみモザイク表示される場合があります。
18. エフェクトエディターでクリップの最後に設定したキーフレームは、第2フィールドに対する設定になります。またタイムラインの静止状態の表示は第1フィールド(NTSC:Odd, PAL:Even)、第2フィールド(NTSC:Even, PAL:Odd)、フレームを選択できます。  
よって、レンダリングをフィールドモードで行なった場合、タイムラインをスクラブして最後のキーフレームと同じ状態の画像を見るためには、静止状態の表示を第2フィールドか、フレームに切り替えてください。
19. キーエディターでフルスクリーン表示した場合は、表示画面のズームアップをすることはできません。
20. イリーガルカラーを持つ画像をレンダリングすると、色が変化する場合があります。  
75%カラーバーの色範囲を超えないようにしてください。
21. バックアップなどの理由でメディアファイルを削除した場合、スピード制御されたクリップを再生するためには、元のクリップをデジタイズ後に再作成する必要があります。  
[スピード制御]機能を用い、ファイル名からスピード情報を入力してください。  
またシーケンスからラックを作成するときは、[読み込んだファイルを含める]に設定してください。
22. クリップ/ソースビューアーでのオーディオスクラブは CH-1/2固定です。  
グループまたはステレオでタイムライントラックに貼られたクリップは、各トラックに対して1チャンネルのみ可能です。
23. コンテナを作成する場合、作成部分にまたがったトランジションはなくなります。  
イン点から開始されるトランジションとアウト点で終了するトランジションは保持されますが、コンテナ作成後の動作はフェードイン/アウトになります。
24. コンテナに対しては、メインシーケンスを表示していてもコンテナを表示していても、オーディオスクラブはできません。
25. オーディオキーフレームの[元に戻す]、[やり直し]は、選択されているクリップに対してのみ有効です。
26. オーディオミックスを記録したくないトラックは、オーディオエディターで[オーディオの記録]ボタンをオフにするか、タイムラインでトラックをプロテクトしてください。  
トラックを非アクティブにしても、記録は実行されます。
27. オーディオエフェクトをクリップを再生しながら調整する場合は、先にクリップを再生、または繰り返し

再生してからエフェクトエディターを開いてください。

またマキシマイザーを複数チャンネルを含むクリップにかけた場合は、リアルタイムで調整することはできません。

28 . ES-3CGで連続入力したテキストの一部分をドラッグして分割した場合は、ページ/ライン揃え、スペーシング、カーニング等は元のテキストとの関係が保持されます。

元のテキストとの関係を保持したくない場合は、分割したい場所にカーソルを移動してエンターキーで改行して移動するか、カットアンドペーストを使用して分割してください。

29 . ES-3 CGで テキストを入力する際、DOCファイルやWRIファイルで文字化けする場合は、TXTファイルかRTFファイルにして入力してください。

30 . ES-3CGでより遅いスピードのロール/クロールタイトルを使用したい場合は、[メディアファイル入力]ダイアログで静止画として取り込み、デューレーションで長さを、モーションエディターで動きを設定してください。

31 . ES-3 CGでページを出力する際に、そのプロジェクトが存在するフォルダーには出力できません。別のフォルダーに出力してください。

32 . ES-3 CGのクロールの最大長は、フォーマット上 16,333ピクセルです。(約 2 2 ページ)  
これ以上長いサイズのクロールタイトルは、使用できません。  
また複数のエディットにまたがるクロールファイルの高さは、画面の1/3 以内にしてください。

33 . テープにストライピング記録をする際のプリロール時間は次の通りです。

この間は、イン点までブラックが記録されます。

RS-422 : 指定したタイムコードの15秒前

i.LINK: 設定されたプリロール時間

34 . テープに記録中は、モニターボリュームの調整はできません。

35 . Quicktimeの入出力をするためには システムにQuicktimeをインストールする必要があります。  
このソフトはES-3には含まれていません。なお入力ビデオのみ可能です。

36 . EDLは、ビデオのマルチレイヤーには対応していません。

マルチレイヤーのシーケンスを出力したい場合は、トラックのプレイバックをオン/オフしてトラックを選択し、分割して出力してください。

37 . EDLを出力する際、シーケンスの23:59:59:11以降は正しく変換されません。

出力するシーケンス中に、23:59:59:11を含まないようにしてください。

- 38 . ヘルプでオペレーションマニュアルを見るためには、ACROBAT READERが必要です。  
インストールされていない場合は、Windowsのスタートメニューの プログラム > EditStation ES-3 > Install から、インストールを実行してください。  
なお、最初にマニュアルを開く場合は少し時間がかかります。
- 39 . ESBZ-3020, ESBK-3031, ESBK-3032をインストールした場合、それぞれのソフトウェアプロテクションキーを装着しないと、各機能は有効になりません。

## [ . 制限事項]

1. ロギングツールやバッチデジタイズで、SDTI(QSDI)やi.LINK接続のVTRを使用中画面が緑色になったり、「デバイスが動作可能ではありません」のメッセージが出るのがまれにあります。  
この場合、ES-3 を終了しメインユニットの電源を OFF して立ち上げ直してください。
2. リアルタイムのスライドで、トランジション中の動作がスムーズでなかったり画像の周辺に黒いエッジが見える場合があります。  
このようなときはモーションエディター（トランジション）で効果を作成してください。
3. ゲンロックをオンにすると 出力信号のサブキャリアが大きなジッターを持つようになります。  
ゲンロックはオフに設定してください。
4. メインユニットの電源を入れたとき、まれに Y 出力の同期がロックしない場合があります。  
この場合は、電源を入れ直してください。
5. DSR-40をRS-422でコントロールする際は、PLAYERポートを使用してください。（PLAYERポートでも記録は可能です。）  
RECORDERポートに接続した場合は認識されません。  
またメインユニットの前面LEDが点滅して、オペレーションができないことがあります。
6. 2台の i.LINK VTRを接続して一方を再生中、他方の電源をオンオフしたりケーブルを抜き差しすると、再生中の画像や音声にノイズが発生する場合があります。
7. AES/EBU出力をDSR-80,85等に入力した場合、VTRのAES/EBU表示が点滅しますが、記録には差し支えありません。
8. ESBK-3031 SDI/SDTI(QSDI) Optionを使用している時のデジタル入出力は、以下の組み合わせのみ可能です。  
これら以外の入出力を使用するときは デジタイズ時とテープ記録時とで設定を変更してください。  
なおi.LINK入力常時可能です。  

[SDI/SDTI(QSDI)入力]	[DIGITAL出力]
SDI	SDI
SDTI(QSDI)	SDTI(QSDI)
SDTI(QSDI)	i.LINK
9. もしレンダリングがスタートしない場合は、トラックのプレイバックをオン/オフしてみてください。
10. ES-3 CGのメニューの一部が、まれに表示されない場合があります。

この場合ES-3 CGを開きなおすか、ES-3を立ち上げ直してください。

11. デュアルモニターで使用している場合、オーディオツールやプロパティを右側のモニターに移動した後にシングルモニターに変更すると、これらが表示されなくなります。  
変更前に、左側のモニターに移動しておいてください。